

中学校 国語 「言葉の力」パワーアップシート 1

学年		
組		
名前		

一 次のアからエの文では、() () の中の1から4までのうち、どれが最も適切ですか。それぞれ一つ選びなさい。

ア 長い間休んでいたのですが、仕事がすつかり
(1) とどこおって (2) いきどおって (3) にえたぎって (4) とりまぎれてしまっていた。

イ 習いたての
(1) まがまがしい (2) たどたどしい (3) にぎにぎしい (4) しらじらしい
英語だったが、現地の人とどうにかコミュニケーションをとることができた。

ウ 心の中の思いを五・七・五・七・七の短歌の形に
(1) つまんで (2) つもって (3) つむいで (4) つかんで伝える。

エ そんな大変な仕事は
(1) 一期一会 (2) 一朝一夕 (3) 一進一退 (4) 一喜一憂) にできるものではない。

二 次の文中の——線部は間違っている。正しい表現に直しなさい。

Aさんが今学期の終わりに転校するらしいということを、小耳につまんだ。

解答欄	一	ア	イ	ウ	エ

二	
---	--

中学校 国語 「言葉の力」パワーアップシート 2

学年
組
名前

一 次のアからエの文では、() ()の中の1から4までのうち、どれが最も適切ですか。それぞれ一つ選びなさい。

ア いつまでも意地を(1 張る 2 食う 3 取る 4 立てる)よりも、素直に謝った方がいいよ。

イ 先週買った新しい靴が、ようやく足に(1 にじんで 2 ほころんで 3 なごんで 4 なじんで)きた。

ウ 新学期が始まるのを、私は(1 胸 2 息 3 ひざ 4 声)をはずませて待っている。

エ 人生を登山に(1 たずさえる 2 わきまえる 3 なぞらえる 4 すりかえる)なら、今はまだ二合目あたりだろう。

二 次の文中の——線部は間違っている。正しい表現に直しなさい。

授業参観日に忘れ物をしてしまい、ずいぶんきまりが狭い思いをした。

解答欄

一
ア
イ
ウ
エ

二

中学校 国語 「言葉の力」パワーアップシート 3

学年	組	名前
----	---	----

一 次のアからエの文では、() の中の1から4までのうち、どれが最も適切ですか。それぞれ一つ選びなさい。

ア 彼女は、突然届いた悲しい知らせに、
(1) せり上げて (2) しゃくり上げて (3) でっち上げて (4) たたき上げて
いた。

イ ぼくはその時、自分の本当の気持ちを言うことに、
(1) いさかい (2) かねあい (3) ふるまい (4) ためらい) を感じていた。

ウ 魚は一度に
(1) あわただしい (2) けたたましい (3) おびたらしい (4) かいがいしい) 卵を産む。

エ 私は、プロの野球選手がホームランを打つ瞬間を
(1) 間 (2) 真 (3) 魔 (4) 目) の当たりにし、とても感動した。

三 次の文中の——線部は間違っている。正しい表現に直しなさい。

父は、一人暮らしをしていた私に、三日にあかず手紙を書いてよこした。

解答欄

一	ア	イ	ウ	エ
---	---	---	---	---

二

中学校 国語 「言葉の力」パワーアップシート 4

学年	組	名前
----	---	----

一 次のアからエの文では、() の中の1から4までのうち、どれが最も適切ですか。それぞれ一つ選びなさい。

ア 英国生まれのAさんは二十年間日本に住んでいるので、彼の日本語には
(1) 年限 (2) 年代 (3) 年輪 (4) 年季) が入っている。

イ 君がご飯をごちそうしてくれるなんて、今日は随分
(1) 気さく (2) 気前 (3) 氣勢 (4) 気まま) がいいね。

ウ 目標を達成しようと思ったら、それに向かって
(1) いささか (2) さながら (3) ひたすら (4) くしくも) 努力することが大切だ。

エ 無人駅のホームに降りると、
(1) さもしい (2) わびしい (3) ひもじい (4) やましい) 光景が広がっていた。

三 次の文中の——線部は間違っている。正しい表現に直しなさい。

会長候補として、白羽の矢が飛ぶ。

解答欄

一
ア
イ
ウ
エ

三

中学校 国語 「言葉の力」パワーアップシート 5

学年	組	名前
----	---	----

□一 次のアからエの文では、() の中の1から4までのうち、どれが最も適切ですか。それぞれ一つ選びなさい。

ア 私は、試合前に骨折してしまい、
(1 やるせない 2 はかない 3 しがない 4 ほかならない)
気持ちになった。

イ 昨日も今日も雨で、気が(1 回る 2 きく 3 すむ 4 めいる)。

ウ 鍵が見つからないと思って家中探し回ったが、今着ている上着のポケットに入っていた。
(1 論より証拠 2 急がば回れ 3 転ばぬ先のつえ 4 灯台下暗し) だね。

エ あの人は、自分のことを(1 天井 2 屋根裏 3 棚 4 軒)に上げて、
人の批判ばかりしている。

□二 「河童かっばの川流れ」に似た意味のことわざを一つ答えなさい。

解答欄

□一	ア	イ	ウ	エ
----	---	---	---	---

□二

中学校 国語 「言葉の力」パワーアップシート 6

学年

組

名前

一 次のアからエの文のうち、「」の中の言葉が最も正しい使い方をされているものを、それぞれ一つ選びなさい。

ア 「いずれ」

- 1 今から二十年後の世界がどうなっているかなんて、いずれ想像もつかない。
- 2 彼がそんなことをするなんて、いずれ信じられない。
- 3 AさんとBさんのどちらが正しいか、いずれ分かることだ。

イ 「戸惑う」

- 1 わたしの思いがけない質問に、彼は一瞬戸惑ったような顔をした。
- 2 みんなを先に行かせ、わたしはその場に一人で戸惑った。
- 3 雑用を片づけるのに随分戸惑ってしまい、帰るのが遅くなった。

ウ 「とうてい」

- 1 彼の本当の気持ちなど、君にはとうてい分かるまい。
- 2 紅葉した木々が、とうてい燃えているように山を彩っている。
- 3 こんなに雪が降っているのは、とうてい客足は遠のいてしまうだろう。

エ 「やり過ぎす」

- 1 嫌われているかもしれないなんて、それは君のやり過ぎしだよ。
- 2 夜ふかしたので、次の朝はやり過ぎしてしまった。
- 3 混んでいたバスを二、三台やり過ぎして、すいたのに乗った。

二 「戸惑う」の類義語を、「惑」の字を含んだ二字熟語で答えなさい。

解答欄

一
ア
イ
ウ
エ

二

中学校 国語 「言葉の力」パワーアップシート 7

学年	組	名前
----	---	----

□一 次のアからエの文のうち、「」の中の言葉が最も正しい使い方をされているものを、それぞれ一つ選びなさい。

ア 「鮮烈」

- 1 生ものは傷みやすいので、鮮烈なうちに食べた方がよい。
- 2 サッカー部に入ったAさんは、毎日鮮烈に練習した。
- 3 彼はデビュー戦でホームランを打ち、鮮烈な印象を与えた。

イ 「むさぼる」

- 1 Aさんは、むさぼるように本を読みあさった。
- 2 Bさんは、部活をむさぼって帰ってしまった。
- 3 Cさんは、賞品のノートを両手いっぱいむさぼった。

ウ 「根掘り葉掘り」

- 1 私の好きな食べ物や好きな本などを、根掘り葉掘り聞かれた。
- 2 子供たちが遊んだ後の部屋は、根掘り葉掘り散らかった。
- 3 Aさんは、運動会の各競技で根掘り葉掘りの大活躍をした。

エ 「尋常」

- 1 尋常から体を鍛えておくことが大切だ。
- 2 今年の夏の暑さは尋常ではない。
- 3 尋常な事態に備えて訓練をする。

□二 「尋常」の対義語を、「常」の字を含んだ二字熟語で答えなさい。

解答欄	□一	ア	イ	ウ	エ	
	□二					

中学校 国語 「言葉の力」パワーアップシート 8

学年	組	名前
----	---	----

□一 次のアからエの文のうち、「」の中の言葉が最も正しい使い方をされているものを、それぞれ一つ選びなさい。

ア 「心もとない」

- 1 たくさんの人が試合の応援に来てくれて、心もとない。
- 2 あの人がきちんと責任を果たしてくれるかどうか、心もとない。
- 3 あの人にはずいぶん迷惑をかけてしまって、心もとない。

イ 「すこぶる」

- 1 この料理はすこぶるおいしい。
- 2 呼び出しを受けてすこぶるかけつけた。
- 3 すこぶる明日は雨になるだろう。

ウ 「とって付けたよう」

- 1 今日はお客様のために、心を込めてとって付けたような品物を用意した。
- 2 蓮の葉の上を転がる朝露は、とって付けたような美しさだ。
- 3 彼は遅刻の理由を問われて、とって付けたような言い訳をした。

エ 「沈着」

- 1 弟は、母に叱られて沈着な表情をしていた。
- 2 予想外の出来事にも、沈着に行動する。
- 3 嵐で流された舟が、離れ小島に沈着する。

□二 「沈着」の二字を含む、似た意味の四字熟語を一つ答えなさい。

解答欄

□一	ア	イ	ウ	エ
----	---	---	---	---

□二	
----	--

中学校 国語 「言葉の力」パワーアップシート 9

学年	組	名前
----	---	----

一 次のアからエの文のうち、「 」の中の言葉が最も正しい使い方をされているものを、それぞれ一つ選びなさい。

ア 「腕を振るう」

- 1 本番で実力が出せるように、日々腕を振るっている。
- 2 今日家族のために、私が腕を振るって夕食を作った。
- 3 不正なことが腕を振るってまかり通るのは良くない。

イ 「せわしい」

- 1 年末の商店街は、新年の準備をする人がせわしく行き交っていた。
- 2 風邪で寝込んでいる私に、こんなにせわしくしてくれてありがとう。
- 3 事情がよく理解できないので、せわしく説明してくれませんか。

ウ 「うやうやしい」

- 1 社長が部屋に入ってきたとき、社員たちはうやうやしくおじぎをした。
- 2 Aさんは毎年海外旅行に出かけると聞いて、私はとてもうやうやしく思った。
- 3 物事をうやうやしくしておくのは嫌いなので、はつきり決着をつけたい。

エ 「胸を打つ」

- 1 一点差で試合に敗れ、悔しさのあまり胸を打った。
- 2 私の頼み事を、彼は胸を打って引き受けてくれた。
- 3 オークストラの素晴らしい演奏が私の胸を打った。

二 「腕」という言葉が入り、「自分の技量・力量に自信がある」という意味の慣用句は何か。
() に当てはまる言葉を答えなさい。

腕に () がある。

解答欄
一
ア
イ
ウ
エ

二
腕に () がある。

学年	組	名前

□一 次のアからエの文のうち、「」の中の言葉が最も正しい使い方をされているものを、それぞれ一つ選びなさい。

ア 「すずめの涙」

- 1 葉の上の朝露がすずめの涙のように美しい。
- 2 カニスープと書いてあるのに、カニはすずめの涙ほどこしか入っていない。
- 3 小説に感動して、私はすずめの涙を流した。

イ 「頭が下がる」

- 1 期末試験の準備ができていないことを考えると、頭が下がる。
- 2 試合で痛恨のエラーをしまって、頭が下がる。
- 3 Aさんの、いつもまじめで正直な態度には頭が下がる。

ウ 「かんで含める」

- 1 授業の内容が、かんで含めるようによく分かるようになった。
- 2 機械の使い方を、かんで含めるようにしていねいに説明した。
- 3 試験前日になって、かんで含めるようにあせって勉強をした。

エ 「辞去」

- 1 危険なものがあれば、すべて辞去しなければならない。
- 2 私は委員長に推薦されたが、自信がないので辞去した。
- 3 知人の家を訪問していたが、夕方になったので辞去した。

□二 「顔」の部首の部分を書きなさい。また、その部首の名前をひらがなで答えなさい。

解答欄

□	ア	イ	ウ
			エ

□	部首
	部首の名前

中学校 国語 「言葉の力」パワーアップシート11

学年	組	名前
----	---	----

■ 次の文章を読んで、問一から三に答えなさい。

谷川の岸に、小さな学校がありました。^①
教室はたった一つでしたが、生徒は三年生が、ないだけで、あとは一年から六年までみんなありました。運動場もテニスコートのくらいでしたが、すぐうしろは栗の木のある、きれいな草の山でしたし、運動場のすみには、^④ぼぼつめたい水を噴く岩穴もあつたのです。

(宮沢賢治「風の又三郎」より)

問一 —— 線部①、③、④の品詞をそれぞれ答えなさい。

問二 —— 線部②「教室はたった一つでしたが」を単語に分けるといくつになりますか。漢数字で答えなさい。

問三 —— 本文から外来語を抜き出して書きなさい。

解答欄

問一	①		
	③		
	④		

問二	
問三	

中学校 国語 「言葉の力」パワーアップシート12

学年	組	名前
----	---	----

■ 次の文章を読んで、問一から三に答えなさい。

ある日の事で、^①「ございます。御釈迦様は極楽の蓮池のふちを、独りでぶらぶら御歩きになつていらつしやいました。池の中に咲いている蓮の花は、みんな玉のようにまつ白で、そのまん中にある金色の蕊からは、何とも云えない好い匂が、絶間なくあたりへ溢れて居ります。極楽は丁度朝なのでございましょう。

やがて御釈迦様はその池のふちに御佇みになつて、水の面を蔽っている蓮の葉の間から、ふと下の容器を、^②御覧になりました。この極楽の蓮池の下は、丁度地獄の底に当って居りますから、水晶のような水を透き徹して、三途の河や針の山の景色が、丁度覗き眼鏡を見るように、はつきりと見えるのでございます。

(芥川龍之介「蜘蛛の糸」より)

問一 —— 線部①「ございます」は敬語ですが、次のアからウのどれに当てはまりますか。最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 尊敬語 イ 謙讓語 ウ 丁寧語

問二 —— 線部②「御覧になりました」とありますが、「御覧になる」を、敬意を含まない言い方に直しなさい。

問三 —— 本文中にある比喻表現をすべて抜き出して書きなさい。

解答欄

問一	問二
問三	

中学校 国語 「言葉の力」パワーアップシート13

学年

組

名前

■ 次の文章を読んで、問一から三に答えなさい。

——人間の心には互たがひに①した二つの感情がある。勿論、誰でも他人の不幸に同情しない者はない。所ところがその人がその不幸を、どうにかして切りぬける事が出来ると、今度はこっちで何となく物足りないような心もちがする。少し誇張②して云えば、もう一度その人を、同じ不幸に陥おとしれて見たいような気にさせなる。そうしていつの間にか、消極③的ではあるが、ある敵意をその人に対して抱くような事になる。——内供ないぐが、理由を知らないながらも、何となく不快に思ったのは、池の尾の僧俗の態度に、この傍観者の利己主義をそれとなく感づいたからにはかならない。

(芥川龍之介「鼻」より)

問一 ①には次のアからウのうちどれが入りますか。最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 蛇足 イ 矛盾 ウ 推敲すいこう

問二 ——線部②「誇張して」を言いかえると、次のアからウのうちどれになりますか。最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 分かりやすく イ 気を引きしめて ウ おおげさに

問三 ——線部③「消極的」の対義語を漢字で書きなさい。

解答欄

問一	
問二	
問三	

学年	組	名前

■ 次の文章を読んで、問一から四に答えなさい。

すると、一生懸命にのぼった甲斐があつて、さつきまで自分がいた血の池は、今ではもう暗の底にいつの間にかかくれて居ります。それからあの ぼんやり光っている恐しい針の山も、足の下になつてしまいました。この分でのぼって行けば、地獄からぬけ出すのも、存外わけがないかも知れません。 犍陀多は両手を蜘蛛の糸にからみながら、ここへ来てから何年にも出した事のない声で、

② 「しめた。しめた。」と笑いました。ところがふと気がつきますと、蜘蛛の糸の下の方には、数限もない罪人たちが、自分ののぼった後をつけて、

③ まるで蟻の行列のように、やはり上へ上へ一心によじのぼって来るではございませんか。 犍陀多はこれを見ると、驚いたの^④と恐しいので、しばらくはただ、莫迦のように大きな口を開いたまま、眼ばかり動かし居りました。自分一人できえ断れそうな、この細い蜘蛛の糸が、どうしてあれだけの人数の重みに堪える事が出来ましょう。

(芥川龍之介「蜘蛛の糸」より)

問一 —— 線部①「ぼんやり」の品詞を答えなさい。

問二 —— 線部②「しめた。しめた。」と笑いました」とありますが、このような笑いを表す言葉として最も適切なものをアからウまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 苦笑いする イ ほくそ笑む ウ 嘲笑する

問三 —— 線部③「まるで蟻の行列のように」で使われている表現技法を次のアからウまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 直喩 イ 隠喩 ウ 擬人法

問四 —— 線部④「の」と同じ用法のものをアからウまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア それは、私の本です。

イ 私は、コーヒーは熱いのが好きです。

ウ 彼の歩んできた道は、平坦ではなかった。

解答欄

問一			
問二			
問三			
問四			

中学校 国語 「言葉の力」パワーアップシート 15

学年	組	名前
----	---	----

■ 次の文章を読んで、問一から三に答えなさい。

御積迦様は極楽の蓮池のふちに立って、この ① 一部始終をじつと見ていらつしやいましたが、やがて韃陀多が血の池の底へ石のように沈んでしまいますと、悲しそうな御顔をなさりながら、またぶらぶら御歩きになり始めました。自分ばかり地獄からぬけ出そうとする、韃陀多の ② 無慈悲な心が、そうしてその心相当な罰をうけて、元の地獄へ落ちてしまったのが、御積迦様の御目から見ると、浅間しく思召されたのでございましょう。

しかし極楽の蓮池の ③ 蓮は、少しもそんな事には頓着致しません。その玉のような白い花は、御積迦様の御足のまわりに、ゆらゆら萼を動かして、そのまん中にある金色の蕊からは、何とも云えない好い匂が、絶間なくあたりへ溢れて居ります。極楽ももう午に近くなつたのでございましょう。

(芥川龍之介「蜘蛛の糸」より)

問一 —— 線部①「一部始終」の意味として最も適切なものをアからウまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 始めから終わりまで全部
- イ 始めと終わりの部分だけ
- ウ 始まってからほんの一部

問二 —— 線部②「無慈悲」は「慈悲」に打ち消しの「無」を付けたものですが、同じように、上に打ち消しの漢字を付けることのできる熟語があります。次の(1)から(3)には、それぞれの打ち消しの漢字を付けたらよいでしょうか。最も適切なものをアからエまでの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 完成 (2) 常識 (3) 人気

- ア 無 イ 不 ウ 未 エ 非

問三 —— 線部③「蓮は、少しもそんな事には頓着致しません」で使われている表現技法を次のアからウまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 体言止め イ 直喩 ウ 擬人法

解答欄

問一	
問二	(1)
	(2)
	(3)
問三	

中学校 国語 「言葉の力」パワーアップシート16

学年	組	名前
----	---	----

■ 次の1と2は、石川啄木の短歌です。これを読んで、問一から三に答えなさい。

1

心より今日は逃げ去れり

病ある獣のぐとき

不平逃げ去れり

2

はたらけど

はたらけど猶わが生活楽にならざり

ちっと手を見る

問一 1の短歌で使われている表現技法を次のアからエまでの中から二つ選び、記号で答えなさい。(ただし、解答の順序は問わない。)

- ア 反復 イ 体言止め ウ 直喩 エ 倒置

問二 2の短歌の句切れはどこですか。①から③までの中から一つ選び、番号で答えなさい。

問三 石川啄木の作品を次のアからウまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「みだれ髪」 イ 「赤光」 ウ 「二握の砂」

解答欄

問一			問二		問三	
----	--	--	----	--	----	--

学年	組	名前
----	---	----

■ 次の文章を読んで、問一から四に答えなさい。

六月中旬の事であった。ある日仕事をしていると子供が呼びに来た。猫をもらって来たから見に来ていのである。行って見るともう ^①かなり生長した三毛猫である。おおぜいが ^②車座クルマせいでになってこの新しい同棲者どうせいしやの ^③一挙一動いつしやういつどうを好奇心に満たされて環視かんししているのであった。 (中略)

畳の上におろしてやると、もうすぐそこにある紙切れなどにじやれるのであった。その挙動ぐれいすぶるはいかにも軽快けいがいでそして優雅えいげに見えた。人間の子供などはとても、自分のからだをこれだけ典雅てんげんに取り扱つかわれようと思われぬ。英国あたりの貴族はどうか知らないが。

それでいて一挙一動いつしやういつどうがいかに子供供こどもどもしているのである。人間の子供の子供らしさと、どこことは明らかに名状なじやうし難いところに著あしい類似るいじがある。

のら猫の子に比べてなんとという著あしい ^④タイショウたいしやうだろう。彼は生まれ落ちると同時に人類を敵として見なければならぬ運命うんめいを ^⑤授けられるのに、これははじめから人間の好意こういに絶対ぜったいの信頼しんらいをおいている。見ず知らずの家にもらわれて来て、そしてもうそこをわが家として少しも疑うたがわず恐おそれでもない。どんなにひどく扱つかわれても、それはすべてよい意味いみにしか受け取とられないように見えるのである。

(寺田寅彦「ねずみと猫」より)

問一——線部①「かなり」の品詞を書きなさい。

問二——線部②「車座」の読みをひらがなで書きなさい。また、この熟語の読み方として最も適切なものをアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 音と音 イ 訓と訓 ウ 重箱読み エ 湯桶読み

問三——線部③「タイショウ」を漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。

問四——線部④「授けられるのに」とありますが、「授ける」の類義語として最も適切なものをアからウまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 与える イ 受ける ウ たずさえる

解答欄

問一				
問二	読み	記号	問三	問四

学年	組	名前
----	---	----

■ 次の文章を読んで、問一から三に答えなさい。

高瀬舟は京都の高瀬川を上下する小舟である。徳川時代に京都の罪人が遠島を申し渡されると、本人の親類が牢屋敷へ呼び出されて、そこでいとまごいをする^①ことを許された。それから罪人は高瀬舟に乗せられて、大阪へ回されることであった。それを護送するのは、京都町奉行の配下にいる同心で、この同心は罪人の親類のうちで主だった一人を、大阪まで同船させることを許す慣例であった。これは上へ通ったことではないが、いわゆる大目に見るのであった、黙許であった。

(森鷗外「高瀬舟」より)

問一 —— 線部①「れる」と同じ働き・意味の「れる」が含まれるものを、次のアからウまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア かがの鳥が野に放たれる。
- イ 先生が黒板に字を書かれる。
- ウ 昔のことがふと思ひ出される。

問二 —— 線部②「いとまごいをする」の意味として最も適切なものを次のアからウまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 食べ物やお金を与える
- イ 別れのあいさつをする
- ウ 刑罰を軽くしてもらう

問三 —— 線部③「護送」とありますが、「護」の「つくり」と組み合わせたとき、別の常用漢字となる「へん」は、アからウのうちではどれですか。最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。また、選んだ「へん」の名前を答えなさい。

- ア ネ
- イ シ
- ウ ヌ

解答欄

問一		問二		問三	記号	へんの名前
----	--	----	--	----	----	-------

中学校 国語 「言葉の力」パワーアップシート19

学年	組	名前
----	---	----

■ 次の詩を読んで、問一、二に答えなさい。

初恋 島崎藤村

まだあげ初めし前髪^①の
林檎^②のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛^③の
花ある君と思ひけり
やさしく白き手をのべて
林檎^④をわれに あたへしは
薄紅^⑤の秋の実に
人こひ初めしはじめなり
わがころなきためいき^⑥
その髪の毛にかかるとき
たのしき恋の盃^⑦を
君が情^⑧に酌みしかな
林檎^⑨の樹の下に
おのづからなる細道は
誰^⑩が踏みそめしかたみぞと
問ひたまふこそこひしけれ

問一 ——線部①「の」と同じ働きの「の」を、詩の中の②から⑩までの中から一つ選び、記号で答えなさい。

問二 ——線部②「あたへし」の読みを現代仮名遣いで書きなさい。

解答欄

問一	
問二	

中学校 国語 「言葉の力」パワーアップシート 20

学年	組	名前
----	---	----

■ 次の漢詩を読んで、問一から四に答えなさい。ただし、設問の都合で返り点を省略している箇所があります。

春望	杜甫	国破れて山河在り
城春草木深	深し	城春にして草木深し
感時花溅泪	涙を	時に感じては花にも涙を溅ぎ
恨别鸟惊心	驚かす	別れを恨んでは鳥にも心を驚かす
烽火连三月	連なり	烽火三月に連なり
家书抵万金	抵る	家書万金に抵る
白头搔更短	短く	白头搔けば更に短く
浑欲不胜簪	簪す	渾べて簪に勝へざらんと欲す

問一 この漢詩の形式を何といいますか。□にあてはまる漢字を書きなさい。

言 詩

問二 押韻している漢字を○で囲みなさい。(本文中に書き込みなさい。)

問三 五行目と六行目に返り点を付けなさい。(本文中に書き込みなさい。)

問四 この漢詩の一部が引用されている松尾芭蕉の作品を次のアからウまでのの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「土佐日記」
- イ 「おくのほそ道」
- ウ 「徒然草」

解答欄

問一	言 詩	問二・問三は本文中に書き込みなさい。	問四
----	-----	--------------------	----